

平成28年度 地方創生加速化交付金事業評価表

事業番号	基本目標	事業名	事業費 交付金充当額	KPI			事業概要	地方創生の推進に有効であったか※2	外部有識者委員会委員の意見等
				設定項目	目標値	実績値			
①	2	津幡駅周辺まちづくり事業	11,362,500円	津幡駅乗降客数 (人/日)	(7,246人※1)	(7,055人※1)	(97.4%※1)	A…6人 B…4人 C…0人 D…0人 E…0人	評価Aの委員 ・早い完成を望む。 ・この構想が計画に発展し、実行されないと最終的評価はできないが、実施のための具体的な第一歩となるものであり、評価に値する。 ・大いに期待している所であり、駅東側の場所を何とか活かしていければ良いと思います。 評価Bの委員 ・これから評価されるべきで、今は事務的な部分の取組みができたということである。 ・更なる進展を期待します。 ・引き続き取組強化し、KPIの進捗確認を徹底してほしい。 ・今後に期待できる。
			11,000,000円	津幡駅東部(北中条区・南中条区)人口	3,435人	3,482人	101.4%		
②	4	地域の福祉拠点づくり活性化事業	10,371,640円	認知症サポーター養成数 (受講延べ人数)	4,653人	5,461人	117.4%	A…3人 B…5人 C…2人 D…0人 E…0人	評価Aの委員 ・地域住民が主体となり、地域それぞれの課題に対応するため、地域住民が支えあい活動する取組みが具体的に実施された。今後は地域住民のみならず、民間団体、企業、ボランティアなどの参画も含めた地域づくりへと進む。 評価Bの委員 ・福祉については努力していることが見える。 ・今後ますますの高齢化が見込まれる中、元気で健康な年寄りになるためにも一人一人の意識向上が必要かと思えます。 評価Cの委員 ・特に意見の表記なし
				要介護認定率	3.0%(65～74歳) 29.5%(75歳以上)	3.2%(65～74歳) 29.7%(75歳以上)	93.8%(65～74歳) 99.3%(75歳以上)		
			10,371,640円	特定健康診査受診率	45.0%	45.0%	100%		
③	2	観光地域づくりに向けた石川版DMO形成推進事業	1,301,830円	金沢地区への入込客数 (人/年)	9,960,000人	10,340,000人	103.8%	A…2人 B…5人 C…3人 D…0人 E…0人	評価Aの委員 ・まず地がためが先とのこと。 ・石川県全体の広域観光マップの作成や、首都圏での観光PRなど単独ではできないことの効果を生かすとともに、単独でのPR動画を製作できたことは有効であり、将来への希望が大きくなった。 評価Bの委員 ・宿泊施設の新設等を希望します。 ・これからの推進体制整備が重要である。 ・都市部と近隣のため、色々ご苦労があると思いますが、ご努力をお願いいたします。他町からは津幡町は住みやすそうだし、交通の便も良いから羨ましいとも聞いております。 ・観光資源が多い金沢市への流入が多いのは当然だが、当町にいかにして観光客を招くかの施策が求められていると思われる。 評価Cの委員 ・石川県との連携も進めて欲しいが、津幡町としても新たな観光資源の開発等も進めてほしい。是非大河ドラマの誘致を実現してほしい。
			1,200,000円						

※1 JR西日本とIRいしかわ鉄道の乗り継ぎ駅となったことに伴い集計方法に変更があったため、目標値を再設定している。

※2 「地方創生の推進に有効であったか」欄の評価

A: 有効であった、B: どちらかと言えば有効であった、C: どちらともいえない、D: どちらかと言えば有効でなかった、E: 有効ではなかった

平成28年度 地方創生加速化交付金事業評価調書

事業番号①

事業名	津幡駅周辺まちづくり事業
実施時期	H28.4月～H29.3月
事業費	11,362,500円
充当額	11,000,000円

担当課
交流経済課

事業概要

津幡駅の乗降口がある西側平坦地は、平成に入ってから金沢市のベッドタウンとして住宅や大型ショッピングセンター等が立地し、津幡駅は、一日約4,500人の乗降客となっている一方、乗降口のない駅東側は、旧国道8号線沿いに国立の石川工業高等専門学校が設置された丘陵地で、ほぼ未開発地域となっており、またこの地域より以東は人口減少など過疎化が進んでいる。

このことから、津幡駅東部地区において産官学が連携し、若者の就労機会の創出や企業の技術水準の向上、民間活力による定住基盤整備および駅東口駅前整備を含めた拠点と成るまちづくりを図るための調査等を実施し、基本構想を策定する。

事業の実施状況

・津幡駅周辺まちづくり基本構想の策定

津幡駅東部地区の活性化と土地利用の効率化を踏まえたまちづくりと新駅構想を含む鉄道沿線のまちづくりの基本構想を策定した。

・津幡町東部地区まちづくり協議会の開催

町内の産学関係者、周辺住民の代表及び町政策アドバイザーがメンバーとなる協議会を2回開催し、東部地区における問題点、課題及びまちづくりの方向性について自由に議論し、まちづくり基本構想策定に向けた意見をまとめた。

・利用者意向調査の実施

WEB、高校生及び津幡駅利用者に津幡駅の利便性向上のためのアンケート調査を実施した。



KPI

重要業績評価指標	目標値	実績値	達成度
津幡駅乗降客数(1日あたり、H26:4576人)	(7,246人)	(7,055人)	(97.4%)
津幡駅東部(北中条区・南中条区)人口(H28.1:3,435人)	3,435人	3,482人	101.4%

※津幡駅乗降客数については、JR西日本とIRいしかわ鉄道の乗り継ぎ駅となったことにより、集計方法が変更となったため大幅に増加した。

事業の自己評価・効果分析

本交付金の活用により、懸案であった東部地区のまちづくりについて基本的な構想を前倒ししてまとめることができ、まちづくりに向けた取り組みを加速化することができた。
同地区の発展のために津幡駅の東口や新駅の設置が必要であるとの意見も多く、今後は鉄道事業者や国、県等との協議を実施する足がかりとすることができた。

今後の展開

- ・まちづくり基本構想から基本計画の策定に向けた計画内容の深度化
- ・駅周辺用地の地権者等との協議・調整
- ・事業化に向けた鉄道事業者や国、県等との協議、調整
- ・駅周辺整備計画の具体化
- ・駅周辺居住人口の増加に向けたまちづくり
- ・駅周辺の集客施設、企業の増加及び活性化

平成28年度 地方創生加速化交付金事業評価調書

事業番号②

細事業名	地域の福祉拠点づくり活性化事業
実施時期	H28.3月～H29.3月
事業費	10,371,640円
充当額	10,371,640円

担当課
福祉課

事業概要

津幡町は長年にわたり旧町村単位である7地区でのコミュニティが強く残っていたが、町外からの転入世帯が急増し、市街地では従来からの住民同士のつながりが希薄となっている一方で、中山間地域では高齢化と過疎化が加速している。また、地域では、行政では対応しきれないさまざまな生活課題も抱えており、これらに対応するため、住民や各種団体、公民館、社会福祉協議会、行政とが協働し、既存の地区組織に、生活支援、健康づくり、介護予防、防災、防犯、コミュニティなどの機能を持たせた「くらし(安全)安心ネットワーク推進委員会」を7地区(旧 1町6村の各地区)に設置する。

事業の実施状況

- ・地域の福祉拠点づくりとして、町内7地区の公民館単位に設置を計画し、年度末までに7地区8か所において、「くらし(安全)安心ネットワーク推進委員会」が設置された。
- ・上記8か所のうち6か所において、地域住民から選出した「地域支援員」を配置し、福祉拠点の事務局として、町社会福祉協議会との連携をもとに、それぞれの地域課題に応じた活動を展開した。



KPI

重要業績評価指標	目標値	実績値	達成度
認知症サポーター養成数(受講延べ人数、H27.12末:4,253人)	4,653人	5,461人	117.4%
要介護認定率 H27.12末:(65～74歳 3.2%) (75歳以上 29.8%)	3.0%(65～74歳) 29.5%(75歳以上)	3.2%(65～74歳) 29.7%(75歳以上)	93.8%(65～74歳) 99.3%(75歳以上)
特定健康診査受診率(H27.12末:44.3%)	45.0%	45.0%	100%

事業の自己評価・効果分析

・福祉の拠点として7地区8地域に展開された「くらし(安全)安心ネットワーク推進委員会」が中心となり住民が主体となって、介護予防の推進、地区防災訓練の実施など、公民館単位での活動支援が行われるようになった。
また、その拠点のうち6地区については、以前から配置が検討されていた地域支援員が選出・配置された。地域からの選ばれた地域支援員を中心に以前より、より地域に根付いた活動支援が進められた。

・各地域において見えた課題から健康づくり、介護予防、障害、子ども世代との交流などの視点から目標が立てられ、その地域課題や目標に合った活動が行われた。

今後の展開

- ・既存の地区組織との連携などにより、行政や社会福祉協議会だけでなく地域が自主性をもてるような活動を支援する。
- ・平成29年度中に平成30年度からの第2次津幡町地域福祉計画を策定し、町の方向性を明らかにする。併せて地域福祉活動計画の推進を図る。
- ・社会福祉協議会をはじめとする民間団体や企業、ボランティアなどの地域活動の参画を支援し、地域づくりを進めていく。

平成28年度 地方創生加速化交付金事業評価調書

事業番号③

細事業名	観光地域づくりに向けた石川版DMO形成推進事業
実施時期	H28.3月～H29.3月
事業費	1,301,830円
充当額	1,200,000円

担当課
交流経済課

※石川県を含む県内20自治体での広域連携事業

DMO(Destination Management Organization)とは観光物件、自然、職、芸術・芸能、風習、風俗などの観光資源に精通し、地域と協働して観光地域づくりを行う法人のこと。

事業概要

新幹線開業効果の持続・発展に向けては、観光客の目線に立った県内市町をはじめとした官民一体での戦略的な取り組みが必要であるため、県と県内全19市町、民間事業者等が一体となり、「(公社)石川県観光連盟」を主体とした石川版DMOの設立へ向け、行政、宿泊施設、交通事業者、商工業者、飲食業者、地域住民など県内の幅広い関係者の合意形成を図り、推進体制を整備し、日本版DMO候補法人として観光庁への登録を目指す。

事業の実施状況

①広域観光マップの作成

北陸新幹線開業効果の持続及び更なる発展に向けて、津幡町、金沢市、小矢部市の3市町で観光情報を多く盛り込んだ新幹線沿線市町の広域観光マップを作成し、駅や観光地等に設置した。

(3市町合計6,000部作成)

②首都圏での津幡町観光PRイベント

石川県アンテナショップいしかわ百万石物語・江戸本店が企画した「加賀祭り」観光PRイベントに参加し津幡町の観光PRを行った。

内容は津幡町観光パンフレットの配布(500部)、アンケートの実施(回答165件)、津幡町大河ドラマ誘致推進キャラクター「よしなかくん・ともえちゃん」を活用した観光PR、特産品等が当たるガラポン抽選会の実施。

③津幡町観光PR動画の作成

津幡町にゆかりのある落語家月亭方正氏を起用し、町の魅力を紹介する観光PR動画を作成した。



①



②



③

- ①広域観光マップ(表紙)
(駅及び観光地等に設置)
- ②首都圏での観光PRイベント
(東京都有楽町東京交通会館前)
- ③津幡町観光PR動画の一場面
(月亭方正氏出演)

KPI

重要業績評価指標	目標値	実績値	達成度
金沢地区への入り込み客数(年あたり、※県央4市2町の指標)	9,960,000人	10,340,000人	103.8%

事業の自己評価・効果分析

- ①広域観光マップの作成をとおして、北陸新幹線の主要駅が有り又観光都市である金沢市とコラボレーション出来たことにより、金沢市を經由し津幡町に訪れる観光客の増加がこれまで以上に期待出来る。
- ②首都圏での観光PRイベントへの参加によって、町が推進しているNHK大河ドラマ「義仲・巴」の誘致活動のPRと、当町の観光及び特産品のPRが出来た。また、アンケート結果から、当町の観光地や特産品に興味のあるものを集計したデータがあることから、この情報も活用しながら今後の観光戦略について検討していきたいと考えている。
- ③観光PR動画については、当町では初めての作成であったことから、今後は町ホームページへの掲載や各種イベントでの上映など様々な場面で、観光PRのみならず、町の魅力を発信する動画としても積極的な活用を予定している。

今後の展開

- ・周辺自治体と連携した広域観光PRの充実
- ・首都圏を含む県内外での観光PRイベントへの積極的な参加
- ・観光PR動画を活用した町内観光地及び特産品の紹介
- ・アンケート等のデータを基にした観光戦略の検討